

鹿児島県の情報システム 調達改革

平成18年7月14日

鹿児島県IT政策監 仲西啓

情報システムの4大要素

Q (Quality、品質)

C (Cost、費用)

D (Delivery、納期)

に加えて、地方自治体では、...

P (Promotion、地場IT企業振興)

が必要。

従来の情報システムにおける課題

1. 発注者(地方自治体)から見た課題

- ・総費用が高い
- ・一次請が過大なリスク費用をとっている
- ・細かな作業を頼もうとしても、作業担当者に通じない
- ・各作業、費目の価格が不明である

2. 請負会社(地場IT企業)から見た課題

- ・仕様未確定、仕様変更が多い
- ・開発期間が(見た目は)長い
- ・開発期間が(実質)短い

そもそもなぜ高いのか？ コスト構造1

$$\text{コスト} = \text{原価} + \text{利益} + \text{リスク}$$

「原価」の削減方法

ムダな業務をトル～いわゆるBPR。決裁者見直し、紙印刷見直しなど。

他サブシステムの連携をトル～いわゆるシームレスなシステム。わかりやすいもの。方向性としては、「集約化」(1箇所に集める)と「公開化」(ドキュメントを整理しわかりやすくする)がある。生産性の向上～部品化、レビュー...その他様々な手法

そもそもなぜ高いのか？ コスト構造2

$$\text{コスト} = \text{原価} + \text{利益} + \text{リスク}$$

適正な利益が必要であるのは当たり前。

競争がないことによる過剰な利益をトル～競争させる。

なぜ競争させられないか？

企業として、価格での競争をしないようにするのは、企業戦略として当たり前のこと。

競争をしない「悪徳会社」がいるのではない。行政が考慮不足なだけ。

そもそもなぜ高いのか？ コスト構造3

$$\text{コスト} = \text{原価} + \text{利益} + \text{リスク}$$

「リスク」とは何か？

予期しないこと、が起きたときに誰が責任を持つのか？ ベンダ
がするなら、「リスク」として積まざるを得ない

リスクにはどんなものがあるか？

技術リスク～はじめてのOS、言語、製品。接続性。

仕様リスク～決まらない、決まってもすぐかわる

自治体調達改革のパターン分け

「俯瞰する人材」がない

どこにその人材を置くか？

庁内に置く (InSource)

庁外に置く (OutSource)

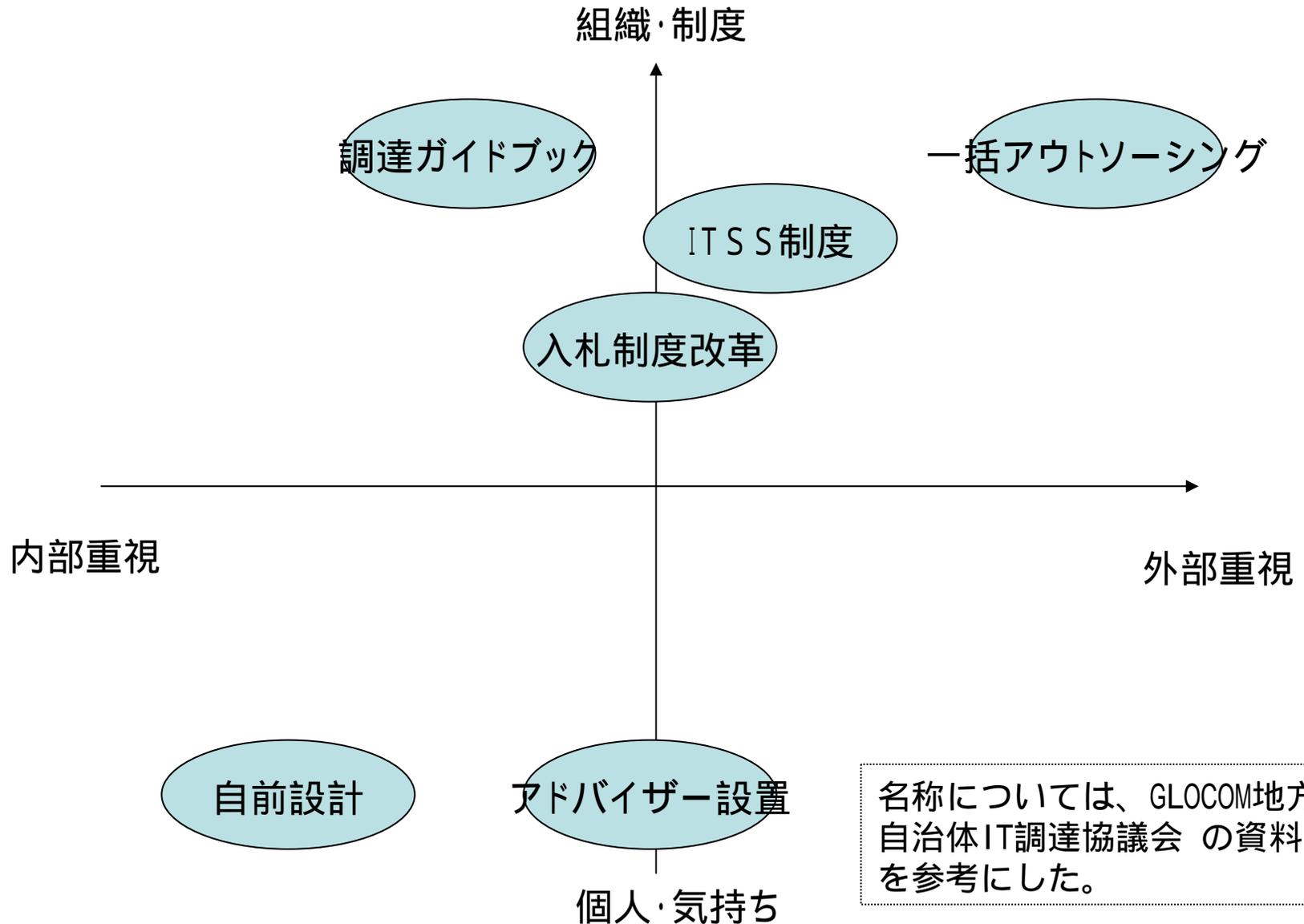
対策、方針、進め方が明確でない

どう表現するか？

ガイドブックなどに明記する

行動で示す

自治体調達改革のパターン分け 2



鹿児島県情報システム調達概況 1

(1) 既存システムの運用・保守

約200の業務システム

運用費用は年間22～24億円

長期固定の1者随意契約が多い

「あそこの会社しかわからない」

費用内訳がわからない

仕様書、設計書、QA集の整理をし、透明化を図り、
運用担当企業の交代もできるようにする。

鹿児島県情報システム調達の概況2

(2) 新規システムの開発

約20～40案件(新規業務、既存業務の機能追加、機器更新を含む)
費用はH18予算ベースでは8億円(各年の変動は大きい)

「安い」は当たり前だが、
未来の「長期固定の1者随意契約」を避けるための、透明化を考慮する。

企画段階、仕様書段階、運用後段階など、時期に応じたチェック
(現在、H19年度開発分についての企画書をチェック中)

(3) 今後の課題

- ・「目に見える」成功
- ・インセンティブの定着